

やはぎかん 6/19

防災交流会

～助け合い・支え合いを考えよう～



市民活動団体等の連携体制の推進および強化、防災の当事者意識の向上を目的とし、学びと交流の場づくりを行いました。

岡崎市防災課、岡崎市福祉協議会を招いての「まなびの場」、岡崎城西高等学校生徒をファシリテータ・記録者として配置し、意見交換やアイデアの共有をした「交流の場」、岡崎市防災課×団体×やはぎかんによる「防災展」の3企画を実施。総来場者は116名となりました。「交流の場」では、普段、交わることがない団体同士が一堂に会することで相互理解に繋がるとともに、団体の普段の活動が有事の際に役立つことを知るきっかけとなり、活動の幅を広げる視点を持ち、さらに活かす道筋をそれぞれが考える良い循環をもたらすことができました。



むらさきかん 6/18

活躍人！交流会

～豊かな自然を未来へ～

環境分野の活動に携わる人の輪を広げ、団体と市民がともに環境について学習する交流会を開催しました。

第1部は、ONERIVERの取組の紹介。第2部では、グループディスカッションを実施し、普段の活動で課題に感じていることや自慢できること、今後やってみたいと思ったことを話し合いました。

参加者からは、「団体の立ち上げや地域活動をしたいけど先のビジョンが無い」「責任が重たく、自分にはハードルが高く感じる。」といった意見がでました。それに対して、もっと緩やかなつながりでも良いし、自分のやりたいことや楽しみたいことを大切に活動してはどうかというアドバイスが伝えられました。その結果、公益活動への参加のハードルが下がり、意欲のある方が公益活動をするきっかけ作りの場となりました。また、今回の交流会は川の下流で活動する団体と上流で活動する団体が多く集まり、同じ川で活動する人たちの輪を広げることもつながりました。



悠紀の里 10/16

●「ゆきファミリーパーク」～おやこきねん日～

市民活動団体と協働して子育て支援を主としたイベントを実施し、その企画や運営を通じて団体の相互理解の向上とネットワーク強化を図りました。

市民活動センター 10/29

●市民活動サポート研修「プロボノ研修」

自身の専門性を活かして社会貢献活動をするボランティアである「プロボノ」の実践例の紹介と受け入れたい団体との交流する場を提供しました。

なごみん

●市民活動相談の活用事例

学生に命の授業をしてくれる人を紹介してほしい。(PTA役員の方より)
→以前情報誌でご掲載した団体をご紹介します。

よりなん

●市民活動相談の活用事例

近隣に住んでいる高齢者の方に習い事や集まりの情報を提供したい。(民生委員のかたより)
→よりなんを利用されている団体一覧をお渡しました。
また、チラシラックもご案内し、選んでお持ち帰り頂きました。

まち育て推進チーム Pick UP!



QURUWAシンポジウム「QURUWAの近未来を考える 一東岡崎駅エリア編一」

駅ビル再開発が発表されたことで、まちづくりの機運が高まっている一方、駅周辺の町内は、高齢化と単身者世帯の増加がみられ、地域活動が難しいという現状があります。今回からは、そんな東岡崎駅エリアをこれからどのようなまちにしていけるかを、住民、行政、事業者、それぞれが考えていくきっかけとなるようなシンポジウムの企画・運営支援を行いました。

お問合せ	よりなん	59-3600	むらさきかん	66-3066	市民活動センター	23-3114
なごみん	やはぎかん	33-3665	悠紀の里	57-5050	まち育て推進チーム	23-2888

まちのミカタ

Litaracy

2022.11 vol.118

発行・編集

特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・Lita

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6
TEL(0564)23-2888 / FAX(0564)23-2898
http://www.okazaki-lita.com/
https://www.facebook.com/okazaki.lita/

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra / 岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所 / 岡崎市各市民センター / シビックセンター / FMおかざき / 杉くんの駄菓子屋 / angelshare / 松應寺 / cafeらがり /

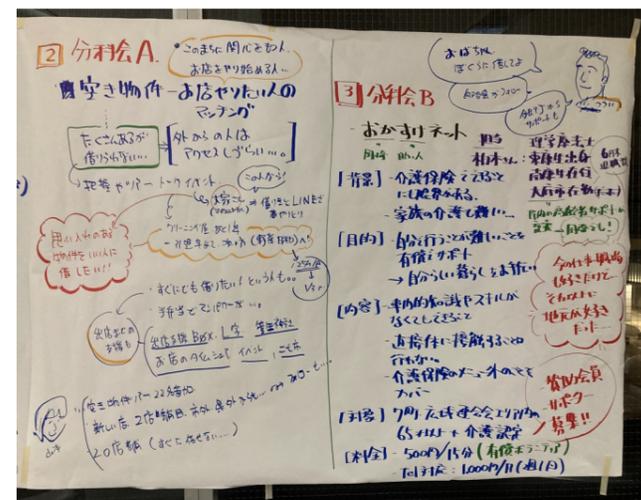
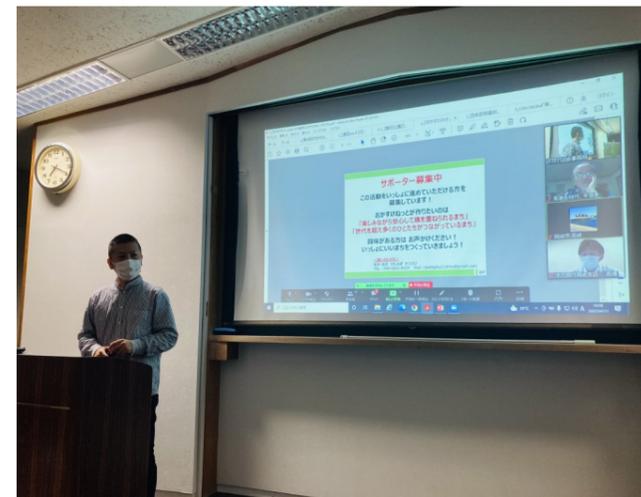
まちのミカタ

Litaracy

ーりたらしいー

118

2022年11月



特集

高齢者の生活支援に現役世代が挑む ～おかすけねっとの試み～

既報(りたらしい108号、2021.3)のとおり、籠田公園の再整備をきっかけとして近年、公園周辺の町内会の連合体である籠田公園周辺7町・広域連合(以下、7町連合)が動き出しています。りたは、この活動の支援等をしてきました。その後「(担い手の高齢化が懸念されるため)7町連合の持続可能性を高めるには、次世代の関わりが必要」といった機運が高まり、2021年7月に、7町連合から派生した「次世代の会」の活動が立ち上がり

ました。次世代の会には、当該地区の内外から30代、40代の現役世代40~50人程度(住民や事業者、行政職員ら)が参集しており、地区の課題解決や魅力創出に向けて毎月熱い議論を展開しています。2022年9月の段階で、4つの分科会(空き家問題、高齢者の困りごとと解決、イベント、SDGs)が活動しています。本稿では、そのうちの一つ「高齢者の困りごとと解決」をテーマとした分科会の活動を紹介します。

世代を超えた助け合いの関係づくり ～おかしねっとの試み～

●はじめに・・・

近年マンション開発が進み、局所的に若い世代が流入してきているものの、地区全体としては高齢化(高齢化率4割超え)や空洞化が進んでいます。2021年夏の次世代の会にて、そこに参加していた地域包括支援センター(以下、包括)の職員から「高齢者の生活支援」に関する問題提起がされました(りたは、こうした話し合いの場の企画運営をしてきました)。

●介護保険の限界？

包括職員(高齢者の生活支援の専門家)の視点からすると「介護保険でサポートできる範囲の限界」が問題となっているとのことでした。例えば、分科会で紹介されたのは「時間的制約があり、洗濯のお手伝いはできても取り込むところまでは難しい」「一緒に買い物に行くというのも難しい」といった問題があるそうです。

介護保険制度の考え方としては、保険の範囲内で最低限の生活ケアを受けられるようになっているが、その先は、家族や近隣住民同士のサポートの中で、どうかしてやってもらいたい、ということになっているようです。とはいえ、そうした家族の助けや住民同士の助け合いが難しい場面も少なくありません。まして、高齢化が著しい地区では住民同士で助け合う、という関係構築にも限界があります。

●「おかしねっど」の挑戦！

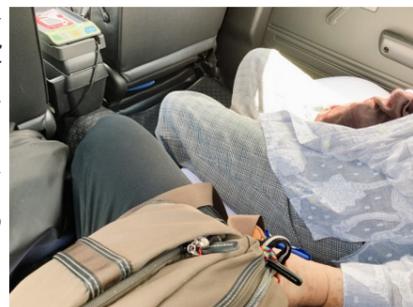
そうすると、高齢者の生活支援に「現役世代」が関わっていく必要性と可能性がでてきます。次世代の会での議論を重ねていった結果、無償ボランティア活動を進めることの難しさが露呈したため、「有償ボランティアサービス」とすることとなりました。こうすることにより、お願いする側の高齢者にとっても気兼ねなく依頼ができ、担う現役世代としても、持続性、継続性がしやすくなるだろう、ということが想定されています。こうした「世代を超えた助け合いのネットワーク」であり「こうした活動を岡崎で広める」という二つの意味を込めて、団体名(サービス名)は「おかしねっど」と名付けられました。

おかしねっどの設立にあたり、りたは団体としての枠組みの整理(設立趣意書、規約、体制)、サービスの仕組みの設計(保険適応、料金設定、料金収入と担い手への支払い方法)のお手伝いをしました。無事に2022年7月、団体設立を果たし、これまで2か月で9件のおたすけ活動を展開するまでになりました(病院への付き添い、網戸の修理、庭の片付け他)。

高齢者の生活支援に現役世代が関わり、世代を超えた助け合いの関係を育むことを必要としている地域は他にもあると思います。ここでの経験を他地区にも展開すべく、今後も尽力していきます。(りた職員 三矢勝司)



▲庭の手入れの依頼



▲病院の付き添い



おかしねっど

代表・柏木 克友さん

私は、理学療法士という資格を持ち、病院や施設で働かなかで、弱った高齢者のみなさんが、そのひとらしく生活を送ることの難しさ、してきた楽しみを諦める姿に直面してきました。何とかしたいと動き始め、サービス内容はすぐに浮かびましたが、団体の立ち上げ方・ルール・運営方法など、小難しい部分は悩む部分が多く、「りた」さんの助言・提案が本当にありがたかったです。このまま走り続け、安心して楽しく歳をとれるまちにしていきたいです。



▲詳細はこちらでご確認ください。
お問い合わせは、
okasukenet@gmail.com
までご連絡ください。



まちづくりトピックス【六ツ美地域自慢交流会】@悠紀の里

2022年9月4日(日)、地域交流センター六ツ美分館・悠紀の里にて、「六ツ美地域自慢交流会」を開催しました。

この交流会は、多様な主体の協力体制を創出または強化することで六ツ美地域全体の地域活動の活性化を目指し、地域で活躍する団体の活動発表と参加者も交えた関係構築のための意見交換会を行う新事業です。これまで多くの地域住民や地域活動団体の皆さんと接した経験から、六ツ美地域(全4学区)には、郷土愛にあふれ活発な地域活動が多く存在する一方で、町と町が広大な田畑で分かれてしまい学区同士の交流が少ない状況にあると地域分析をしています。悠紀の里には市民活動支援に加えて、地域活性化を推進する役割もあるので、ここを拠点に、それぞれの学区での活動を知り顔の見える関係を築いておくことで、お互いに協力し合える関係を作れるとよいのでは、と考え本事業を企画しました。人口減少を背景に、地域活動の担い手不足が深刻化しており、今後、自力で活動を継続することはより難しくなっていくでしょう。限られた人的資源の中で、自分たちで行うこと・協力をお願いすることを見極め、他団体と情報交換し助け合う“協働”関係を築くことが活動の継続につながります。

悠紀の里では、協働を促進するために、多様な主体が集まる情報交換および関係構築のための交流会を継続していきます。



▲各班の進行は、地域包括の職員やイベント運営のボランティアの皆さんに担当してもらいました。

～実施内容～

- 地域活動団体の活動発表
地域の伝統・文化・資源を後世に伝えていく活動や高齢者の移動支援活動等に関する活動発表を行いました。
- 参加者も交えた意見交換
「発表内容への感想」や「六ツ美地域全体の交流を深めるには」というテーマを設け、ワークショップ形式で意見交換。地域を越えた交流が必要！若手を巻き込まないと！という意見が目立ちました。
- かわら版
発表や意見交換の内容をまとめた報告冊子を作成し、回覧板で六ツ美地域の皆さんに情報共有を行いました。



▲写真1「子供の科学」

岡崎市本宿町にある「神谷書房」が閉店すると聞いたのは7月でした。中学生の息子と共にお世話になっていた書店です。成長に合わせて「こどものとも」や「たぐさんのふしぎ」、小学生になってからは「子供の科学」(写真1)を定期購読し、毎月必ず二人で訪れていたお店です。

本を買いながら、「ノートや赤鉛筆はちゃんとある？」と学校で必要なものをここで確認する私(持ち物のチェックは自分でやらせたい親)。「ばあちゃんに貰った図書カードでマンガ2冊買っていい？」「〇〇頑張ったからゾロリ買って！」と本なら甘い私に、更にあえて店のおじさんの前で交渉してくる息子(ネゴシエート能力さすが！)。

私は数年前より本宿景観まちづくりに携わる機会を貰い、当時の本宿小4年生の皆さんと旧東海道のまち探検をしました。子どもたちと一緒に散歩しながらまちを歩き、おしゃべりをたくさんしました。父兄が名所を説明しに出てきて下さったり、街並み散策の方とあいさつをしたり、小学生の視点で日常を掘り下げる時間でした。発見したまちの魅力はまとめられ『旧東海道本宿通信』(写真2*)として町内に配布されました。そこでも「神谷書房」は誰もが知っており遊べる場所・ずっと残したい場所に揚げられており、子どもたちの日常の中にある大事な居場所だったのだと実感しました。自分のお気に入りや思い出のお店が無くなるのは寂しいことですが、これを機にまちの変化を気にしてみたいと思いました。最後に、一つのアイデアや努力、一人の課題意識からまちが大きく成長すると聞いたことがあります。日常の業務の中でも市民協働コーディネーターとして次世代へのまなざしを持ち、そこにある「思い」をキャッチし、うまく言えないですが地域の皆さんの日常が「なんとなく良い方向」に進んでいくサポートができればいいなと思いました。

(やはぎかんスタッフ K)



▲写真2「旧東海道本宿通信」

りた職員の思いを伝える！
コラム第1回 まちから本屋が消える？